

製品名: GRID2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87225**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	Calculated MW:113 kDa; Observed MW:113 kDa

抗原情報

遺伝子名	GRID2
別名	GluD2; SCAR18
遺伝子 ID	2895
SwissProt ID	O43424
免疫原	ヒト GRID2 の合成ペプチド

背景

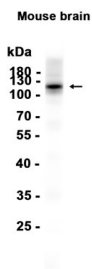
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、哺乳類の脳で主要な興奮性神経伝達物質受容体であるイオンチャンネル型グルタミン

酸受容体ファミリーのメンバーです。コードされるタンパク質は、小脳プルキンエ細胞で選択的に発現する複数回膜貫通型タンパク質です。「lurcher」と呼ばれる表現型に関連するマウス相同遺伝子の点変異は、ヘテロ接合状態では、出生後の発達中に小脳プルキンエ細胞の選択的かつ細胞自律的なアポトーシスに起因する運動失調を引き起こします。この変異のホモ接合型マウスは、胚発生後期中脳および後脳ニューロンが大量に失われるため、生後まもなく死亡します。このタンパク質は、平行線維とプルキンエ細胞間のシナプス組織化にも関与しています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。この遺伝子の変異は、ヒトにおいて小脳失調を引き起こします。[RefSeq 提供、2014年4月]

研究分野

-

画像データ



GRID2 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス脳組織抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。